# 尼僧ヨアンナ（1961）

MATKA JOANNA OD ANIOLOW
MOTHER JOAN OF THE ANGELS
THE DEVIL AND THE NUN
JOAN OF THE ANGELS［米］

**メディア** 映画
**ジャンル** ドラマ
**製作国** ポーランド
**色彩** B&W
**時間** 108分
**初公開日** 1962/04/20
**公開情報** 東和

**【解説】**

ポーランドを代表する作家イワシキェウィッチが、１７世紀フランスの史実に基づいて書いた短編小説の映画化で、舞台はポーランド北方に置き換えられている。辺境の尼僧院に赴任しようという司祭スリンは、そこを目前にして近くの宿屋に泊まる。客や従業員たちの間では、院の話題で持ち切りだ。尼僧たちは、院長ヨアンナを始めとして、みな悪魔にとりつかれ、情欲のままにふるまっている。スリンはその悪魔払いのため来たのだが、先任者は完全にヨアンナの魔性に狂って火刑に処されたのだ。彼は悪魔と対峙する前にすでに震えおののく。そして会ったヨアンナは、平常時は美しく淑やかだが、ひとたび、その魂が悪魔を呼べば獣のように肉の交わりを求めて這いずり回るのだ。自分を、そしてヨアンナにも、鞭打ってその誘惑を振り払わせる苦行を強いるスリンだが（白い聖衣が干している選択部屋の隅と隅に分かれてのシンメトリックな構図）、次第に彼女らの内奥にある魂の真実の叫びが彼にも届き始める。そしてヨアンナの中の悪魔を自ら引き受ける事でしか、彼女を解放する術はないと信じたスリンは、彼女を抱いて悪魔と一体になり、罪のない従者と宿屋の下男を殺す。その血によって彼の内に封印された悪魔は、やがて彼に下される火あぶりの断罪に彼と共に昇天するであろう、そんな余韻の中に映画は終わる。果たして、悪魔とは字義通りのそればかりでなく、たとえば、カソリック教義自体が内包する神や悪魔を弄ぶ矛盾、ナチの残虐行為からスターリン圧政に連なるポーランドの問題を意味する言葉でもあろう。東欧映画に共通する理詰めの放縦とでも呼びたいカメラの運動にも圧倒される、鬼才カワレロウィッチによる真の恐怖映画。主人公が自分とそっくりの顔をしたラビ（ユダヤの僧侶）に教えを請うシーンが印象的。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | イェジー・カヴァレロヴィチ | Jerzy Kawalerowicz |
| **原作** | ヤロスワフ・イワシキェウィッチ | |
| **脚本** | イェジー・カヴァレロヴィチ | Jerzy Kawalerowicz |
| | タデウシュ・コンヴィツキ | Tadeusz Konwicki |
| **撮影** | イエジー・ヴォイチック | Jerzy Wojcik |
| **出演** | ルチーナ・ウィンニッカ | Lucyna Winnicka |
| | ミエチスワフ・ウォイト | |
| | アンナ・チェピェレフスカ | Anna Ciepielewska |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.